



共同国際文理専攻（仮称）に関するアンケート

大学院・後期3年間の博士課程

このアンケートは、東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学の3大学の卒業生が在籍する組織・企業の皆様にご協力いただき、3大学が共同して新しく作る共同国際文理専攻に対するご感想やご期待を伺うものです。本専攻をより有意義なものにするために、また、時代になかった文理協働の人材を養成したいという3大学の挑戦を後押ししていただくためにも、是非ともみなさまのご協力をお願い申し上げます。なお、アンケート結果は統計資料としてのみ利用します。この目的以外に利用することはありません。

共同国際文理専攻（仮称・平成31年度設置予定）は、東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学の3大学が結集し、新しい時代を見据えて構想した共同の新専攻です。その目的は、学生の専門性を重視しつつ、人文社会科学・理工学・農学を俯瞰でき協働の視点を持った実践的グローバル人材の育成にあります。

共同国際文理専攻（仮称）は、3大学が、それぞれの強みを基礎に、近接する立地の好条件を活かして準備を進めてきた次世代の高度教育の構想です。

■ 3大学の強み

東京外国語大学・・・言語・リベラルアーツと地域研究の研究教育力
東京農工大学・・・食料・エネルギー・ライフサイエンス分野の研究力と技術力
電気通信大学・・・情報・通信（ICT）、人工知能・ロボティクス、光工学分野の研究力と技術力

■ 専攻のご紹介

共同国際文理専攻（仮称）は、3大学が協働してカリキュラムを運営し、指導を行います。後期3年間の博士課程で、学生は、東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学のいずれかの大学が本籍校となります。

社会人入学者のための制度（休日や夜間を利用した講義の実施、長期履修制度等）も充実させる予定です。

教育研究組織：3大学による共同専攻
（東京外国語大学 東京農工大学 電気通信大学）

専攻名：共同国際文理専攻（仮称）

（共同国際文理専攻（仮称）設置の趣旨と背景は資料1頁の図をご参照ください。）

■ 学位

博士（学術）

■ 養成する人材像

複雑化するグローバル社会においては、実際の社会課題の解決には、異分野連携、特に文理協働といった統合的なアプローチが重要かつ不可欠です。昨今は、産業界からも地球規模の課題を分野横断型の発想で解決できる

人材が求められており、理工系専攻であっても、人文社会科学を含む幅広い分野の科目を学ぶことや、人文社会科学系専攻であっても、先端技術に深い関心を持ち、理数系の基礎的知識を身につけることの必要性が示されており、この専攻は、それぞれの専門性に軸足を置き、異なる分野の研究成果を融合しイノベーションを生み出す実践的グローバル人材を養成します。

すなわち

1 人文社会科学分野におけるニーズ指向の課題設定力	を併せ持つ人材です。
2 理工系科学技術分野におけるニーズ指向の問題解決力	

具体的には、

高度な専門性を基盤にしつつ、論理的思考力とコミュニケーション能力を持って、複眼視点から現代社会の情勢を把握し、解決すべき課題を的確に理解するとともに、文理協働の専攻ならではの分野横断型の発想によって、食料・生命、エネルギー・資源・環境、ICT・人工知能、医療・福祉・健康などの専門分野において、効果的かつ有効な戦略やシステムを立案設計し、かつ国際チームを牽引、チーム運営ができる人材です。

(養成する人材像のイメージは資料 2 頁の図をご参照ください。)

■教育の特色

3 大学の教員による共同指導体制により、自分の専門分野に軸足を置きながら、異分野の研究成果を融合する力、そしてその結果イノベーションの触媒的な役割を果たせるようなこれまでにない、学際的な教育を展開します。

また、学生は本籍校の指導教員の下で専門分野の教育を受けるとともに、本籍校以外の 2 大学の副指導教員からも教育を受けます。

教育スキームとしては、

理系学生に対しては、国際社会で活躍できる公益性・実践性思考の優れた能力	の育成に注力します。
文系学生に対しては、エビデンスに基づいて自分の研究をコンテキスト化する能力	
文系・理系双方の学生に対しては、文理協働型のケーススタディとファシリテーションを基盤とした実践的能力	

(カリキュラムの具体的な内容は資料 3 から 6 頁の図をご参照ください。)

■専門分野

各大学からの専門分野（予定）は以下のとおりです。

東京外国語大学	東京農工大学	電気通信大学
地域動態論、グローバルスタディーズ、表象文化論 等を具体例とする人文・社会科学分野の研究	国際農業開発、生物資源機能学、エネルギー、生体医用システム等を具体例とする理工農系分野の研究	社会情報システム、情報通信ネットワーク工学、計測・制御、光工学等を具体例とする理工系分野の研究

■設置

平成 31 年度（2019 年度）予定

3. あなたが現在学んでいる専門分野、または将来学ぼうとしている専門分野を教えてください。

現在学んでいる分野 _____ 将来学ぼうとしている分野 _____

4. 上述したような三大学による共同国際文理解専攻（仮称）に興味がありますか。

- ① 大変興味がある
- ② 興味がある
- ③ どちらかと言えば興味がない
- ④ 興味がない

5. 三大学による共同国際文理解専攻（仮称）に進学したいですか。

- ① 強く希望する
- ② 希望する
- ③ どちらかと言えば希望しない
- ④ 希望しない

6. 東京外国語大学の学生にお聞きします。東京外国語大学の教員があなたの主指導教員となつたうえで、さらに東京農工大学や電気通信大学の教員が副指導教員となって、多面的な指導を受けるというあり方は、あなたの能力を伸ばすうえで有益であると考えますか。（注意：所属大学により文中の大学名は変更する）

- ① 強くそう思う
 - ② そう思う
 - ③ どちらかと言えばそう思わない
 - ④ そう思わない
- ①から④それぞれ回答された方へ、何故そう思われるのか理由を教えてください。（自由記述）

7. 東京外国語大学の学生にお聞きします。東京農工大学や電気通信大学で教授されている専門分野のうち、ご自身の専門分野と親和的と考えられるものを選んでください（複数回答可）（注意：所属大学により①～⑨の専門分野を変更する）

- ① 地域動態論

- ②グローバルスタディーズ
- ③表象文化論
- ④国際農業開発
- ⑤生物資源機能化学
- ⑥エネルギー
- ⑦生体医用システム
- ⑧その他 ()

8. 将来、海外で就職することや、海外との密接なコミュニケーションを必要とする職業（企業における国際担当部署等）に就くことを希望していますか。

- ①強く希望している
- ②希望している
- ③どちらかと言えば希望していない
- ④希望していない

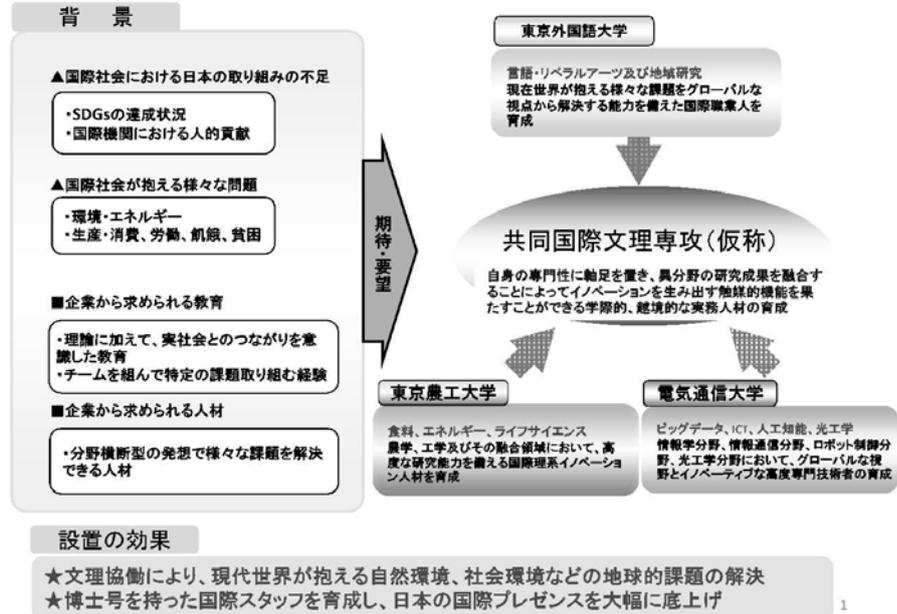
9. もしあなたがこの共同国際文理解専攻（仮称）に進んだ後、就職するとすれば、将来の仕事として次のどの分野に興味がありますか。（複数回答可）

- ①国連等の国際機関（例：UNICEF、UNHCR、FAO、WFP等の国連機関、世界銀行）や外務省
- ②政府系開発援助機関、国際NGOや開発コンサルタント
（例：JICA、FACID等の国際開発援助機関、NPO、NGO、民間コンサルタント会社）
- ③ISO等の国際認証機関（例：ISO、GAP、HACCP等の国際認証機関）
- ④国内又は海外の企業等（例：民間企業の国際担当、技術開発、新規事業部門等）
- ⑤国内又は海外の大学・研究機関等の研究者等

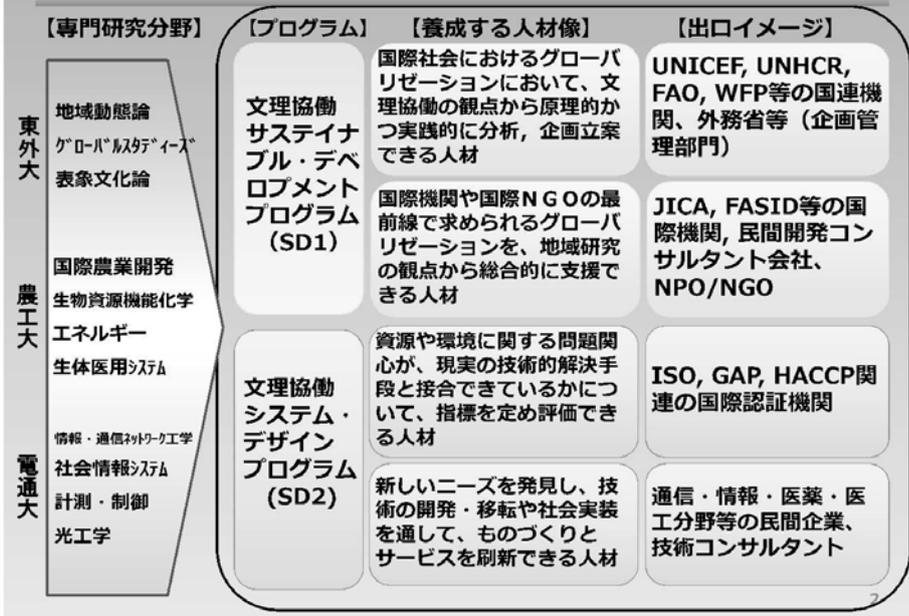
10. その他、ご意見や共同国際文理解専攻（仮称）で取り組んで欲しいことがありましたらご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

共同国際文理専攻（仮称）の設置の趣旨及び必要性



共同国際文理専攻（仮称）における養成する人材像



共同国際文理専攻（仮称）の教育スキームの特色

- ・国際社会で活躍できる公益性・実践性志向の卓越した能力の育成
- ・エビデンスに基づいて自らの研究をコンテキスト化する能力の育成
(社会実装化や国際標準ルール構築に向けた、国際センスの涵養と専門研究の遂行力の習得)
- ・(トリプレット) 文理協働型のケーススタディとファシリテーションを基盤とした実践的能力の育成

アンダーラインの用語については末尾の注釈をご参照ください。
(次ページ以降も同様です。)

3

養成する人材 (≡ディプロマ・ポリシー)

高度な専門性を基盤に、秀でた論理的思考力とコミュニケーション能力をもって、複眼的視点から現代社会の情勢を的確に理解し、分野横断型の発想により、食料・生命、エネルギー・資源・環境、ICT・人工知能、医療・福祉・健康などの人類が克服すべき課題の解決に向けて、次世代の戦略やシステムを立案・設計でき、かつ国際チームを牽引・運営できる人材

カリキュラムの目標 (≡カリキュラム・ポリシー)

- ・ 1) 普遍的かつ実践的知識を基盤とする国際的センス、2) 国際通用性のある実践的理論・スキル、3) 国際通用性のある論理的思考力とコミュニケーション能力、4) 高度な専門性 (コア・コンピテンシー)、を身につける。
- ・ カリキュラムは、共通基盤科目、文理協働セミナー/ラボワーク科目、実践実習科目の3科目区分から構成される。各科目区分の到達目標は以下のとおりである。
 - 【共通基盤科目】 講義/演習を通じて、ケーススタディ、PBL型ワークショップ、ファシリテーションを活用し、1)～3)の基本能力を身につける(詳細は次スライド)。
 - 【文理協働セミナー/ラボワーク科目】 主指導教員研究室のセミナー、ラボワークでは、博士論文研究を通じて4)を身につける。副指導教員の研究室では、自身の専門と異なる分野研究者との密度の濃い交流を通じて、応用力を高め、1)～3)の能力を磨く。特に、分野横断型の発想力、適応力、合意形成スキル等を向上させる。
 - 【実践実習科目】 文理協働コロキウムや国内外でのインターンシップ等、より多様性、実践性に富む実習を通じて、実社会に通用する、1)～4)の能力を高める。特に、専門性の応用力、エビデンスに基づいた論理性のあるコンテキスト化、分野横断型の発想力、調整力、コミュニケーション能力などの実践的能力を身につける。

4

修了要件、共通基盤科目の概要

○ 修了要件

科目群	修了に必要な単位数
共通基盤科目	6単位以上
文理協働セミナー／主専攻科目	6単位
ラボワーク科目／副専攻科目	2単位以上
実践実習科目	6単位
計	20単位以上

○ 共通基盤科目の概要

- 1) 普遍的かつ実践的知識を基盤とする国際センス：現代グローバル化社会の本質や課題等に加え、SDGsやレジリエンスなどを含む国際通用性のある多面的文化理論およびEPA、生物多様性条約、ISO、GAP、GMPなどの国際標準ルールに関する知識を深め、国際的センスを涵養する。
- 2) 国際通用性のある実践的理論・スキル：社会数理（統計学、経済学など）、生命科学、システム工学の基礎理論ならびにライフサイクル・アセスメント、ロジックモデル、バリューチェーンマッピング、アウトサイドインアプローチ、標準化、リスク分析（評価・管理・コミュニケーション）、費用便益分析などの実践的分析手法を習得する。
- 3) 国際通用性のある論理的思考力とコミュニケーション能力：プロポーザル・ライティング（英語）、ディベート、ファシリテーションなどを通じて論理的思考力・表現力を高めるとともに、特定課題または特定地域を題材にしたケーススタディやPBL型ワークショップの実践的協働学習を通じて基盤知識・スキルの応用力を磨き、エビデンスに基づく論理性をもつコンテクスト化の手法を学び、国際通用性のあるコミュニケーション能力を醸成する。

5

共同国際文理専攻（仮称）カリキュラム

区分	科目名	開講	必修 選択	単 位 数	1年次		2年次		3年次		主な到達目標	授業形態ほか
					前	後	前	後	前	後		
共通基盤科目	特別講義Ⅰ	共同	選	1	*						普遍的かつ実践的知識を基盤とする国際センスの涵養	専任・外部講師によるオムニバス講義
	特別講義Ⅱ	共同	選	1	*						国際通用性のある実践的な基礎理論・スキルの習得	専任・外部講師によるオムニバス講義
	特別演習Ⅰ	共同	必	2	*						エビデンス・ベースの問題発見・解決能力の醸成による、国際センスの涵養	ケーススタディ、PBL型ワークショップ主体
	特別演習Ⅱ	共同	必	2	*						基礎理論および分析手法の応用力の向上による、実践的理論・スキルの習得	ケーススタディ、PBL型ワークショップ主体
	国際文理協働特別演習Ⅰ	共同	選	1		*					論理的思考力の醸成による、コミュニケーション能力の向上	異分野交流ディベート・ファシリテーション主体
	国際文理協働特別演習Ⅱ	共同	選	1		*					論理的表現力の習得による、コミュニケーション能力の向上	プロポーザル・ライティング（英語）主体
文理協働セミナー／ラボワーク科目	分野セミナーⅠ～Ⅵ（地域動向論）	東外大	必/選	6/1	*	*	*	*	*	*	主指導教員研究室のセミナー、ラボワーク（6セメスター！）～Ⅵ、6単位）では、博士論文研究を通じて自身の専門性（コア・コンピテンシー）を高める。副指導教員の研究室のセミナー、ラボワーク（2セメスター以上）：Ⅰ～Ⅵ、2単位以上）では自身の専門と異なる分野研究者との密接な交流を通じて、応用力を高め、普遍的かつ実践的知識を基盤とする国際的センス、国際通用性のある実践的理論・スキル、国際通用性のあるコミュニケーション能力の醸成。	トリプレット体制（主指導教員1名、副指導教員2名、教員3名は異なる大学の所属を原則）によるセミナー・ラボワーク
	分野セミナーⅠ～Ⅵ（グローバル・ビジネス）	東外大	必/選	6/1	*	*	*	*	*	*		
	分野セミナーⅠ～Ⅵ（国際文化論）	東外大	必/選	6/1	*	*	*	*	*	*		
	分野セミナーⅠ～Ⅵ（国際産業開発）	農工大	必/選	6/1	*	*	*	*	*	*		
	分野セミナーⅠ～Ⅵ（生物資源機能化学）	農工大	必/選	6/1	*	*	*	*	*	*		
	分野セミナーⅠ～Ⅵ（エネルギー）	農工大	必/選	6/1	*	*	*	*	*	*		
	分野セミナーⅠ～Ⅵ（先端医療システム）	農工大	必/選	6/1	*	*	*	*	*	*		
	分野セミナーⅠ～Ⅵ（情報・通信システム工学）	電通大	必/選	6/1	*	*	*	*	*	*		
	分野セミナーⅠ～Ⅵ（計測・制御）	電通大	必/選	6/1	*	*	*	*	*	*		
	分野セミナーⅠ～Ⅵ（光工学）	電通大	必/選	6/1	*	*	*	*	*	*		
実践実習科目	国際文理協働先導演習Ⅰ	共同	必	2	*	*					実社会に適用する、普遍的かつ実践的知識を基盤とする国際的センス、国際通用性のある実践的理論・スキル、国際通用性のあるコミュニケーションの実践的能力を身につける。	論文中間審査を含めた公開報告と対面文理協働ワークショップ
	国際文理協働先導演習Ⅱ	共同	必	2			*	*				
	学外実践実習	共同	必	2	*	*	*	*				国内外機関・企業でのインターンシップ

6

用語解説

1. ライフサイクル・アセスメント・・・製品やサービス（役務）のライフサイクル（資源採取から廃棄・リサイクルまで）全体における環境負荷の定量的評価
2. バリューチェーンマッピング・・・企業において、影響の評価と優先課題を決定するための出発点として、供給拠点・調達物流から生産・事業を経て製品の販売・使用・廃棄に至るまでを図式化し分析すること。
3. コア・コンピテンシー・・・中核的能力
4. アウトサイドインアプローチ・・・世界的な視点から、何が必要か外部から検討し、それに基づいて目標を設定することで、企業が現状の達成度と求められる達成度のギャップを埋めていくこと。
5. ファシリテーション・・・合意形成を促進すること。
6. コンテキスト化・・・論脈化。論旨一貫した文脈を構成できること。
7. ロジックモデル・・・ある施策がその目的を達成するに至るまでの流れの論理的な因果関係を明示したもの。
(出典：主にSDG Compassより)